



経済産業省公認

全石協 news

◎ 新年のご挨拶

全国石製品協同組合 代表理事 加登隆三

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、長らく続いたコロナ禍にも、ようやく収束の兆しが見えてまいりました。感染者数はまだまだ増減を繰り返しているものの、久しぶりに行動制限のない年末年始を、ご家族やご親族とともに過ごしになった方も多いのではないのでしょうか。

一方で、ウクライナ危機に端を発する物価高と円安の影響は、当然のように石材業界にも及んでいます。円安によって輸入材の仕入れ価格は上がり、原油価格の上昇は国内外における輸送費の高騰をもたらしました。工事に必要な原料や機材の価格も同様です。しかしながら、多くの小売店および関連業者にとって、大幅な値上げに踏み切ることが決して簡単なことではありません。所得が伸び悩む中での物価高、いわゆる「悪いインフレ」によって消費者の財布の紐が固くなっていることに加え、インターネットを主戦場とする安売り業者が勢力を伸ばしていることもその要因となっています。かねてからの後継者問題も重なって、やむなく廃業を選ぶ石材店もあるようです。

日本人にとって当たり前のこととして存在し続けてきた「供養」の未来はどうなってしまうのでしょうか。日本はこのまま輝きを失ってしまうのでしょうか。

そんな昨年でしたが、遠くカタールから私たちに勇気づけてくれるニュースが舞い込んできました。FIFA ワールドカップにおける、サッカー日本代表の目覚ましい活躍。格下と目されていた日本チームが、強豪国ドイツ、スペインをともに見事な逆転劇で下し、2大会連続となるベスト 16 の座を勝ち取ったのです。決して諦めることなく走り続ける粘り強さと団結力は、体格や技術に勝るヨーロッパ勢を翻弄し、世界のサッカーファンを大いに驚かせました。惜しくも史上初のベスト 8 に駒を進めることはできませんでしたが、まだまだやれるぞニッポン、そう感じたのは私だけではないはずです。

苦境における振る舞いにこそ、人間の真価は問われます。ただ俯（うつむ）いて現実から目を逸らすのか、かすかな光をもとめ前を向き続けるのか。

弊組合の中心事業のひとつに業界の発展のため、技術、知識をさらに高める研修を行ない、優秀な会員に資格を与える「石匠位」認定事業があります。昨年 11 月、3 年ぶりにオンライン

にて開催し、新たに3名に「石匠位」を授与することが出来ました。初の試みで不安や葛藤もあったものの、受験を希望される方々の想いにお応えしたい一心で、多少の無理は覚悟のうえで敢行いたしました。結果として資格保有者が増えたことは言うまでもありませんが、開催がオンラインになったことで行き帰りの移動による時間の制約が大幅に減り、会員の皆さまが参加しやすくなった点は思わぬ副産物でした。今後もオンラインで実施するかは議論の余地がありますが、出来ない理由を並べて思考停止するのではなく、可能性がわずかでもあればそれに目を向け、諦めずに行動してみることの素晴らしさを実感する出来事のひとつでした。

昨年は石匠位認定事業再開のほかにも、会報誌『全石協 news』の定期発刊化を実現しました。2ヵ月に1回という頻度で、業界ならびに弊組合の動向を会員の皆様と共有させていただくことが可能になりました。また、2021年秋にリニューアルオープンしたポータルサイト『みんなのお墓』は、多様化する消費者のニーズを反映し、幅広い供養の形を消費者にご紹介すべく、お墓以外にも納骨堂や樹木葬墓地、室内墓といった納骨施設のご紹介を始めました。まだ発展途上とは言え着実に成長を続けています。

幸いにも、今年はコロナ禍という重い足かせが外れ、久しく顔を合わせることのなかった組合員の皆さまにお目にかかることができそうです。自粛に傾かざるを得なかったこの3年間を思えば、コロナ以前を彷彿とさせるような、活気ある1年になるであろうと期待しております。伝統ある「供養」「お墓」文化を担う立場から、ニッポンを元気にしていきたいと考えておりますので、皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。

◎ 11月29日（火）、「石匠位認定試験」をWEBシステムを利用して実施!!

合格認定者は下記の3名です（認定番号順、敬称略）。誠におめでとうございます！

- ・認定番号 2022001 森本充裕（有限会社森本直道石材店、兵庫県小野市）
- ・認定番号 2022002 半田幸寛（石商半田屋商会、兵庫県赤穂郡上郡町）
- ・認定番号 2022003 田代尚重（株式会社田代家、東京都小金井市）

◎ 2月15日（水）、「インボイス制度研修会」（全国中央会主催）が開催されます！

【日時】 令和5年2月15日（水）14：00～16：00 【対象】 組合加盟店

【開催方法】 オンラインにて実施（Zoom ウェビナー使用）

【内容】 テーマ：インボイス制度の概要と対応について

※令和5年度税制改正大綱に盛り込まれた措置の内容も説明

※研修会の前半は免税事業者向け、後半は課税事業者向けの内容構成の予定
（聴講範囲に制限はございません）

講 師：塚越税務会計事務所 公認会計士・税理士 塚越 大紀 氏

【申込締切】 令和5年2月7日（火）

【お申込み】 社名、受講者名、メールアドレス（受講者）を下記まで。

全国石製品協同組合事務局 E-mail：info@zenseki.or.jp

※上限に達した場合、ご参加いただけないことがあります。ご了承ください

◎ 令和4年度第2回理事会（11月21日） 報告

《設立10年の総括と、これからの10年を考える討論》

・加登理事長

お客様のお墓の祀り方が大きく変化している。そこに如何に我が組合が貢献出来るかを考えたい。

・藤太郎総業（千葉県）柴田監事

供養の気持ちは変わっていない。多様化はしているが、供養への予算がかけられない。今の若い人は、家から個への供養となっている。小売店へは、ハード面ではなく、ソフト面でバックアップしたらどうか？

・石匠あづま家（千葉県）長江監事

お墓自体が、お客様がもとめやすい金額で販売するようになっている。組合は、精神的なバックボーンがあり、消費者を騙さないデスクアサービスを提供すべき。

・松戸家（東京都）中本理事

安心・安全を担保できる仕組みづくりができる組合にしたらどうか。

・はぎの家石材店（千葉県）萩元理事

組合は10年先を考えて変えるべきは賛成。様々な困ったを解決する団体にならないか？特に人の問題（なかなか採用が出来ない）は急務。納骨件数は増えるが、対応するスタッフがいらない。営業員も時代にあった営業活動が出来ない。製造現場のスタッフが不足。業界をクリエイイトする人材もいない。

・井比石材工業（千葉県）井比理事

その他の建設業という位置付け。昔は、大手石材店の施工部から下請けへの細かい指示があった。しかし、セメント施工からボンド施工になって以降、今は下請け任せの状態になっている。品質管理・安全管理・産業廃棄物処理法など墓石の建立も建設業法を守らないといけな時代へ移り変わっている。

・佐藤石材工業（宮城県）佐藤理事

目先の仕事を追うのではなく、2040年に死亡人口がピークを迎えることもあり、お墓文化の再構築をしたらどうか。仙台の石材店は、未だに樹木葬に抵抗がある。しかし、葬儀社などが樹木葬へ参入してきている。我々（石材小売店）が主管となり再構築する必要がある。価値ある情報を発信するキュレーションサイトを構築してはどうか。

・東洋石材工芸社（岡山県）河田理事

外国人の労働派遣の受け入れを行なう。終活事業は成功していないが、遺品整理は唯一、成功しているように思う。名義貸しをしている寺が廃業になるケースが増えている。霊園問題の解決に繋がる組合になればと思う。

・橋口石彫工業（熊本県）橋口理事

建設業からしたら一番下の位置づけ、石工事の建立は免許がいらない。お墓参りのre デザインというアプローチもどうか。

・清水屋（東京都）清水理事

組合を変えるのであれば、石材業界内外問わず意見を聞き「ヤバさの思考（例えば、全く異なるものを組み合わせて新しいビジネスモデルを創出するなど）」が持てる集団になれば良いのでは。

・沖セキ（神奈川県）緑間理事

根本的なものが出来ていない下請けもいる。中国がロックダウンしている。

・石玉石材（岐阜県）水野理事

石材店個々の成功事例を共有する機会が増えれば良いのでは。

・田中家（大阪府）・田中理事

業界団体では唯一、経済産業省公認団体であることを活かす。他の団体と差別化する。

・中村石材（香川県）中村理事

他の石材団体との連絡を密にとり、団体の方向性を決めていくべき。

・加登トウキョウ（大阪府）加登理事

一つひとつの要望に応じていくだけでも良いのでは。一方でリソースの問題がある。経済産業省公認団体として期待をしたい。

・石長（神奈川県）杉山専務理事

土日が埋葬で手一杯、埋葬を受けて頂ける会社があればという同業の石材店の声が聞こえる。

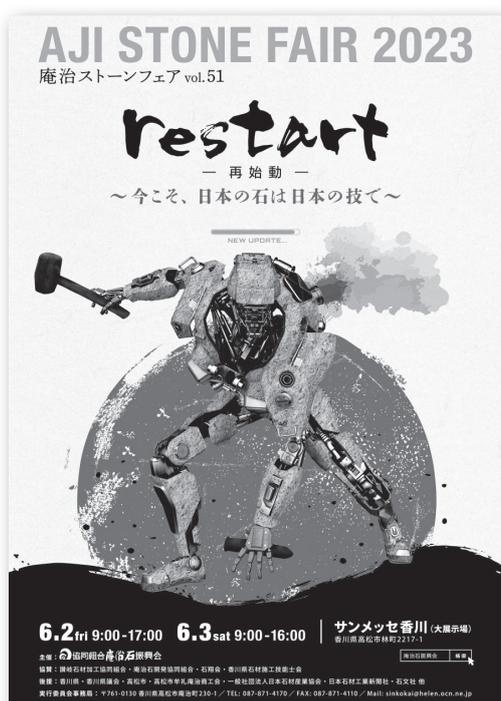
・田代家（東京都）田代副理事長

組合として何かしらのビジネスモデルを構築してゆく必要があると思う。

・太田石材店（大阪府）太田相談役（副理事長）

出来れば変えたくないが、場合によっては、組合名称の変更をしてもよい。

◎「庵治ストーンフェア 2023」 6月2日(金)・3日(土)、4年ぶりに開催されます！



庵治ストーンフェア 2023 が6月2日(金)、3日(土)の2日間、香川県高松市のサンメッセ香川で開催される。コロナ禍により2019年開催を最後に中止が続き、4年ぶりの開催となる。主催する(協)庵治石振興会(太田明彦理事長)では、庵治産地から国内産地、そして業界全体に活力を注ぎ、着々と準備を進めている。

テーマは「restart - 再始動 - ～今こそ、日本の石は日本の技で～」。不安定な世界情勢、急激な円安、中国石材業界の状況、国内の墓石市場の停滞など、業界を取り巻く環境が不安視されるなか、改めて庵治産地をはじめ国内産地の力を結集し、業界全体をつなぎとめ、未来に向けて再始動する活力を与えようとの想いを込める。そのための企画も注目だ。

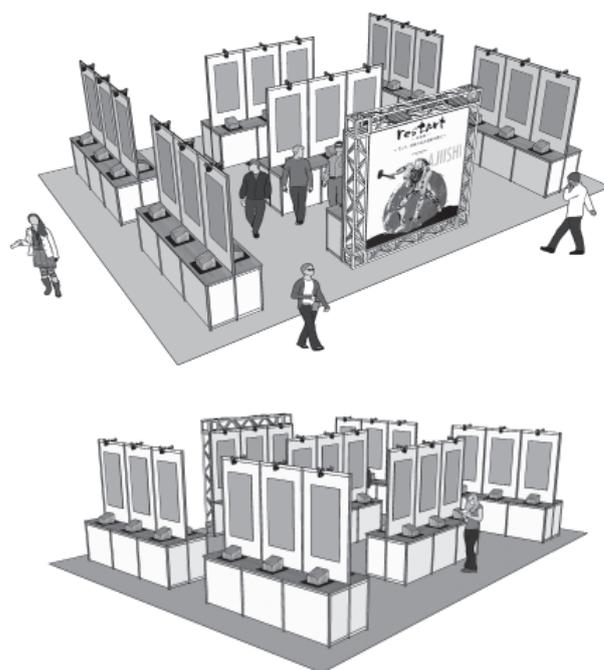
・日本の石が大集結！

今回はフェアと同じテーマで企画展を開催する。国内各地の石を集結させ、会場内（屋内）の特設ブースで大々的に展示紹介する。

「日本の石・技術の安心感から国内産地の存在意義が高まっている昨今、フェアで各石種情報を発信し、各産地と卸業者・小売店、そしてお施主をつなぐ役割を果たしたい」と、フェア実行委員長の額田雄一氏。さらに「全国で採掘中の石を合計30種ほど展示予定。普段なじみのない石もあり、再発見の場にもしたい」と続ける。

展示用の石は庵治産地で25cm角に加工するが、その加工賃・出展料は無料（庵治産地までの原石輸送費は着払いOK）。しかもそれら展示石種は、フェアにあわせて広く配布されるパンフレットの巻頭特集にも無料で掲載される。会期終了後の引き合いも期待できる。

まだ出展申し込みが済んでいない採掘業者・組合等は、ぜひ協庵治石振興会までお問い合わせを！



・力自慢が大集結！

関連イベントとして、各地の力自慢の石材業界人が参加する「アームレスリング（腕相撲）大会」を開催する。こちらは2020年のフェア（中止）で企画していたイベントで、追加2年の準備期間を経て満を持しての開催となる。

しかも、香川県アームレスリング連盟の全面協力のもと実施される超本格派。審判や競技テーブルなども同連盟から貸与され、もちろんルールもプロ仕様。ケガなどの万が一の事故に備え、保険に加入するから安心。上位入賞者には景品があり、応援団などでも盛り上げられる。「我こそは」と思う力自慢の皆さん、ぜひご参加を。

この他にも、恒例の庵治石「大丁場見学ツアー」も実施する予定。庵治石細目の採石場をマイクロバスで訪問し、日本を代表する銘石の壮大なスケールの丁場を体感できる機会となる（日時等は調整中）。

また今回、出展者・来場者ともに便利なのは、これまでの〈土曜・日曜〉開催から、〈金曜・土曜〉開催に変更されること。特に県外からの参加者の負担を軽減する。

「これまで出展経験のある石材業者を中心に、石材に関わる幅広い事業者の皆様のご参加をお待ちしています」と太田理事長。

各企画とも準備段階であり、未定事項は決定後に改めて紹介したい。

◎ 「老後のお墓についての心配事」 についてのアンケート調査

【調査対象】 全国 40 代から 60 代の男女

【調査期間】 2022 年 10 月 1 日～ 2022 年 10 月 31 日 【調査方法】 インターネット調査

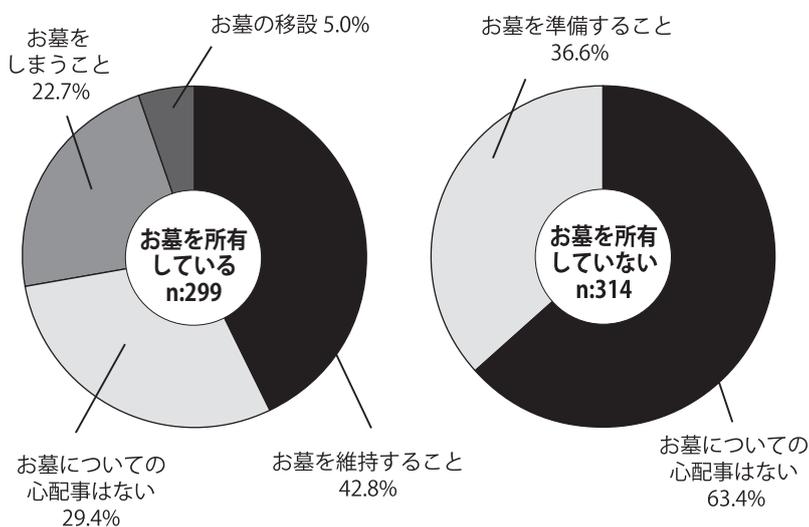
【有効サンプル数】 613 名

- ◇ “お墓を所有している人” の心配事で最も多かったのが「お墓を維持すること 42.8%」、次いで「お墓についての心配事がない 29.4%」、「お墓をしまうこと 22.7%」と続く。「お墓の移設」は 5.0% であった。
- ◇ “継承者がいる人” は、「お墓についての心配事はない 47.4%」が最も多く、次いで「お墓を維持すること 40.8%」。
- ◇ “継承者がいない人” は、「お墓を維持すること 38.1%」と「お墓をしまうこと 38.1%」が同数で最も多い結果となった。

【調査結果】

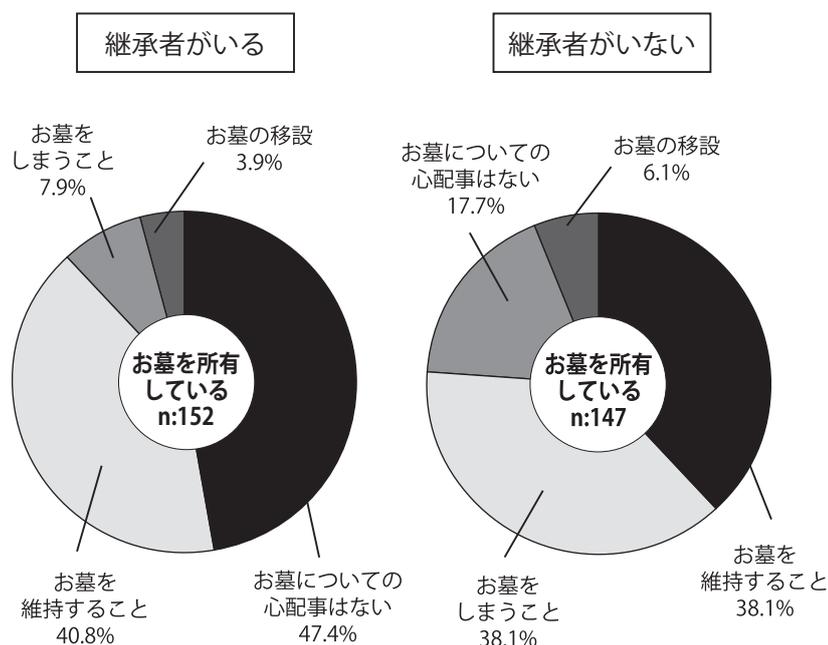
1. 「老後のお墓についての心配事」として、“お墓を所有している人” の回答で最も多かったのは「お墓を維持すること 42.8%」、次いで「お墓についての心配事はない 29.4%」、「お墓をしまうこと 22.7%」と続く。「お墓の移設」と回答した方は 5.0% であった。

一方、“お墓を所有していない人” では、6 割以上が「お墓についての心配事はない 63.4%」と回答し、残り 4 割弱の人が「お墓を準備すること 36.6%」と回答している。



2. “お墓を所有している人” のうち、“継承者がいる” 人では、「お墓についての心配事はない 47.4%」が最も多く、次いで「お墓を維持すること 40.8%」と続く。「お墓をしまうこと 7.9%」、「お墓の移設 3.9%」については、それぞれ 1 桁台の値に留まる。“継承者がいる” 人は、お墓を所有し続けることを意識した回答の合計が約 9 割を占める結果となった。

一方、“継承者がいない” 人では、「お墓についての心配事はない」と回答した人の割合が、“継承者がいる” 人と比較して 29.7 ポイント低い 17.7% となり、また、「お墓をしまうこと」が、“継承者がいる” 人よりも 30.2 ポイント高い 38.1%、「お墓の移設」が 2.2 ポイント高い 6.1% となっている。“継承者がいない” 人は、お墓の維持に心配を感じ、具体的なお墓の対策に関心を持っていることがうかがえる。



3. “お墓を所有している人”の心配事を年代別で見ると、“継承者がいない”40代・60代では、「お墓を維持すること」、50代では「お墓をしまうこと」が最も多く、“継承者がいる”人では、40代・50代が「お墓を維持すること」、60代では「お墓のついての心配事はない」が最も多い結果となった。

“継承者がいない”人では、親世代からお墓を引き継ぐ50代になると、「お墓をしまう」ことに対する関心が高まり、“継承者がいる”人では、40代～50代で「お墓の維持」に関心が向き、60代になると継承者と思える子供が自立することなどによりお墓の継承がより具体化することで、お墓についての心配事が無くなっていく傾向が表れるのではないかと。

◆ お墓を持っている・継承者がいない

項目	40代		50代		60代	
	件数	比率 (%)	件数	比率 (%)	件数	比率 (%)
お墓について心配事はない	4	14.8	13	18.8	9	17.6
お墓の移設	4	14.8	2	2.9	3	5.9
お墓をしまうこと	9	33.3	30	<u>43.5</u>	17	33.3
お墓を維持すること	10	<u>37.1</u>	24	34.8	22	<u>43.2</u>
計	27	100.0	69	100.0	51	100.0

◆ お墓を持っている・継承者がいる

項目	40代		50代		60代	
	件数	比率 (%)	件数	比率 (%)	件数	比率 (%)
お墓について心配事はない	5	26.3	23	39.6	34	<u>45.3</u>
お墓の移設	0	0.0	3	5.2	3	4.0
お墓をしまうこと	0	0.0	7	12.1	5	6.7
お墓を維持すること	14	<u>73.7</u>	25	<u>43.1</u>	33	44.0
計	19	100.0	58	100.0	75	100.0

《まとめ》

今回のアンケートでは、「老後のお墓についての心配事」をテーマに調査を実施。お墓を所有している人については継承者の有無、年代によって、意識が異なることがわかった。特に“継承者がいない”人が、「お墓を維持し続けるのか」「お墓をしまうのか」について悩み事を抱えていることがわかり、現役世代から離れることを意識する時期なのか“継承者がいない”50代が墓じまいを明確に意識し始めることが読みとれる結果となった。

老後のお墓問題については、管理者の健康状態、家族構成、経済面、価値観など、さまざまな要素で、将来の在り方を決めていくことになるかと考える。全石協は、個人や家族のライフスタイルに対応した多様なお墓のニーズに応えられるよう、今後も供養文化や正確な墓地・墓石情報の提供に努めてまいります。

 経済産業省公認 20121004情第5号 全国石製品協同組合	お問い合わせ等は、☎ 03-5733-3776
〒 105-0012 東京都港区芝大門2丁目9番14号5F FAX : 03-5733-3778 E-mai : info@zenseki.or.jp	https://zenseki.or.jp/